

障がい者が住みやすい街は 自分自身も住みやすい：



どんまい主催松山市の精神保健福祉大交流会『夕涼み会』2011.08.27

障がいとは大きく分けて身体障がい、知的障がい、精神障がいの3障がいがあります。身体障がいについては比較的的理解されやすいのですが、知的障がいと精神障がいの違いはなかなか理解されないのが実情です。生来の発達、能力の障がいを知的障がい、後天的に起こる精神科疾患に由来する障がいを精神障がいといいます。

入院という医療の中で処遇が行なわれてきたため、歴史的に福祉という考え方はほとんど皆無と云っていい状態でした。しかし双方とも隔離収容するという考え方が長く続いたことは確かです。地域では家族や市民がボランティアで集まり、場や小さい作業所を細々と手作りするしかありませんでした。平成18年にできた障がい者自立支援法という法律により3障がいの福祉を統一する問題が山積みで、来年法律が変わるそうですが、精神障がいのある人たちに福祉という制度を適用されたことで今まで進められなかった自分の暮らしを取り戻すことへの応援ができてやすくなったことは確かです。愛媛県には約5000人分の精神科の入院ベッドがあります。入院をしている人の



うどん打ち体験・みんなでコネコネ

中で、病気自体はよくなっているのに、引き取る家族がいない、一人暮らしは難しい……等が理由となつて、何十年もの間入院できず、入院というくくりの中で病院の中で生活せざるを得ない人達が未だにたくさんいます。

例えば25歳から60歳まで病院の中の生活しかない人生を考えてみてください。NPO法人どんまいは立ち上げて6年目になりますが、その人達が地域で自分らしい生活を取り戻すために、5人から7人という少数で共同生活ができるケアホームを5施設30人分、日中の活動の場として就労継続支援B型事業所を2施設運営しています。

ケアホーム「こだちでの出来事」

そのうちのケアホームの1施設「どんまいハウスこだち」は平成19年4月に開設してから5年目になります。街中の住宅街で精神障がい者のケアホームを開設するにあ



NPO 法人 どんまい
理事
谷本 圭吾
(松山市)

障がい者にやさしいまちづくり

少しづつ生活にも慣れてきた頃のことです。『こだち』の前には細いところで1.5mくらいの生活道路があります。細いけれど地元の人にとっては便利な道なので通行量は多いのですが、いつも草がポウポウで、それまで前の家のおばあちゃんが時々一人で草引きをされていたようでした。でも広い範囲なのでとても追いつきません。それを見かけたスタッフは入所者のみんなと相談しました。「おばあちゃんが一人で草引きは大変そうだね、みんなも毎日通らなければいけない道だからみんなで行うか：」。みんなすぐ賛成し、数日後、全員スコップや草削りをもって一面に生えた草



打ちたてうどんはうまい!!

たつて、地域の人の信頼関係や調和についてはとても気を使いましたが、民生委員さん、町内会長さん他、地域の方に何とかご理解いただきスタートすることができました。その施設で新しい生活を始められた7人の方は長い間精神科病院に入院していた方ばかりで、街で暮らしにそう簡単な



地域の人たちとこだちのメンバーでこんなにすっきり



市民大清掃・草茫々の道が…

刈りを始め2時間程で道は綺麗になりました。そういうことを何度か続けるうちに、前のおばあちゃんがメンバーに声をかけてくれました。「いつもきれいにしてくれてありがとう。一人では大変だったのよ」と。それから5年、いまでは『こだち』の入所者にはたくさん地域の人が声をかけてくれます。先日の市民大清掃の時は『こだち』さんも、いつもありがとうと地域の方々が声をかけてくれながら一緒に道の草刈りをしました。町内会のイベントにも積極的に参加し、地域の中に溶け込んでいる実感があります。

住みやすい街って？

地域に新しい施設を作ろうとする時、地域の人の理解を得るといことは大変難しいことです。それは障がいをもつ人たちのことがあまりにも知られていないからです。怖い存在と誤解され、「何かあった時の責任はだれが：」などという言葉も耳にします。でもそれは障がいというものを理解されていないからです。付き合ってみればそういう気持ちはなくなってしまうのですが、知らないということがどれだけ社会をせまくしてしまうかということをいつも感じます。

障がい者が住みやすい街は自分自身が住みやすい街です。『NPO法人どんまい』では活動を皆さんに知ってもらうためにHPを開設しています。是非覗いてみて下さい。



NPO法人 どんまいHP

<http://www.npo-donmai.com>